第 2015-17 号

恵みと真理のニュース

2015 年 4 月の四次　恵みと真理教会
韓国 京畿道 安養市 萬安区 安養路 193 / ☎82-31-443-3731 / www.gntc.net

［証］　神様は私の重い病気を癒してくださり、礼拝と仕える幸せを切に悟らせるようにしました

5年前2月とても寒い冬、首区域長の家で区域祈り会をする時でした。礼拝を捧げる中で急に頭が痛くてめまいがして外に出て吐きました。礼拝の途中で起きたことで隣りのおばさんがこの光景を見てき“大丈夫ですか？みんな驚きました。”
祈り会を早く終えて伝導士と区域長が祈ってくださり早く病院に行くようにしました。まず行った小さい村の病院では急いで大きい病院に行きなさいと言われ、夜、また頭が痛くて吐いて旦那と大きい病院までタクシーを乗って行きました。CT撮影もしてMRIも受けました。すると頭の中の血管が膨らんでいました。それですぐその次の日に脳の手術を受けました。牧師と伝導士とそして区域長達が祈ってくださる中で手術室に入りました。
髪の毛を切って中を見ると今までの血管が破れてその中で血の塊がありました。朝8時から午後2時まで6時間にかかって手術をするあいだ3人の娘が泣きながら神様に祈り、牧師と伝導士と区域長達も手術が好く出来るように切に祈りました。神様の恵みで手術が終わって重病室で移しました。生まれてみたらベッドで手足が結んでいました。そのくらい痛みが酷かったです。朝、夜、面会の時に牧師と伝導士が来られ神様の御言葉で慰めてくださり落胆しないように励ましてくださり、早く回復するため切に祈ってくださいました。そして、私の子供達と旦那まで私のため祈ってくれました。
神様の恵みで手術をして2週間ぶりに普通の一般病室に移しました。医師も私の回復を驚きました。退院が高くて両のわきに氷を入れて神様をあおぎながら退院の日を待ち望みました。
そして15日ぶりに退院しました。神様にまことの感謝をして教会で祈ってくださった方々にも感謝しました。祈りの中で驚かないですぐ病院に行って教会の多くの方々の祈りで神様の恵みで大きい大手術して早く退院することが出来ました。今は神様の恵みで完全に健康になることを願いながら神様を信じゆだねました。教会の近くに住んでいる長女の家で休みました。まだ子供達が助けないと一人で立てない状況ですが再び健康な体で教会に行く事を想像して希望を持ちました。長女の家が６階でしたが下を見てその道を自らの力で歩いて教会に行きたくて泣きました。“私が呼ばないと来れる人がいないとおっしゃった主よ。私を呼んでください。一人で行くように導いてください。と祈り子供と一緒に教会に行って礼拝を捧げました。教会で牧師と伝導士がみんな驚いてこのように早く外に出ても良いと心配してくださいました。このように父の家で来る事が出来て感謝して礼拝の時間に泣きながら礼拝を捧げました。体が早く回復され私の家に戻って来ました。
教会に行くと月曜祈り会と金曜祈り会で礼拝すると私の口から“　恐れることはない、わたしはあなたと共にいる神。たじろぐな、わたしはあなたの神。勢いを与えてあなたを助け／わたしの救いの右の手であなたを支える。（イザヤ41：10節）心を騒がせるな。神を信じなさい。そして、わたしをも信じなさい。わたしの父の家には住む所がたくさんある。もしなければ、あなたがたのために場所を用意しに行くと言ったであろうか。（ヨハネの福音書14：1,2）聖書の御言葉を覚え祈りになりました。“この御言葉が出るか疑問でした神様の恵みで私の体が強くなり健康になっているのに4月のある日に旦那が体の調子が悪くて病院に行って検査をしたら肺癌の末期の診断が出ました。旦那は入院と退院を繰返してイエス様を受け入れました。旦那が救われて6月に旦那は神様の天国に召されました。私が2月に手術を受けで回復され6月に旦那が天国に召されました。その苦しい過程を良く過ごせるように私を強くしてくださり私の心に主の平安を与えてくださいました。旦那の葬式を見るときに不信者の親戚が酷いことを言ったり神様の栄光を防ぐ事になるのではないかと心配しましたがキリスト教の式で神様に礼拝して無事に葬式を終えました。三つの娘達の助けと神様の恵みでむしろ信じない家族に福音を伝える事が出来ました。
旦那を救ってくださり残っている家族が天国の希望の中で神様を畏れ愛し委ねるように導いてくださった事を感謝します。主の事にもっとするように使命をするように守ってくださった神様の愛に感謝します。病弱な状態で私は切に悟りました。若い時に健康な時にどんな事より主と主の体になる教会を仕え福音を伝える事に最善を尽くすことを悟りました。
もうこれから私が食べても飲んでも起きても寝ても健康な体で子供に祝福になり、主が来られる日まで忠誠した者で生きることです。それで今日も私は祈ります。“神様、私の祈りを守ってください。もっと主の事に忠実になるようにしてください。恥ずかしい救いではなくて主の前で賞をもらえるようにしてください。アーメン

［信仰コラム］　キリストを信じる者に対する審判

そういうわけだから、肉体を宿としているにしても、それから離れているにしても、ただ主に喜ばれる者となるのが、心からの願いである。 なぜなら、わたしたちは皆、キリストのさばきの座の前にあらわれ、善であれ悪であれ、自分の行ったことに応じて、それぞれ報いを受けねばならないからである。（コリント人への第二の手紙，5:8~10）

イエスキリストを信じる者は神様の審判を全然経験しなくなることでしょうか? そうではないです。 イエスキリストを信じる者にも審判があります。 ただ大きくて白い宝座の前にひいて審判を受けないです。 他に言って火の池に投げこむ審判を受けません。 イエスキリストを信じる者が経験するようになる審判を三つ種類の方面でよく見ます。

第一に、過去の審判があります。
これはイエスキリストが私たちの罪を担当して私たちの代わりに審判を受けた事件を意味します。 イエス様が受けた刑罰は私たちが受ける審判の刑罰を代わりに受けたのです。 イエスキリストを信じる人はイエスキリストにあっては審判を受けた者に見なされるから定む罪がないし　また審判がないです。 罪に許しを受けて義のあるとを得たから大きくて白い宝座の審判台に立たないです。 神様は極めて聖なる義のある方なので極めて小さな罪でも受け入れなくて必ず審判なさいます。 ところでイエスキリストが私たちのすべての罪を一つも残らず永遠に一気にすべてあがないしました。

二番目で、現在の審判があります。
神様が選んだ民イスラエルに関する旧約の歴史を振り返れば一方は神様の救いの歴史とともに、 一方は神様の審判の歴史です。 神様に選ばれてイエスキリストにあって呼ばれを受けた聖徒にもこの世の中を生きる間に神様が審判なさいます。 この審判は懲戒と表現するのが適切です。 クリスチャンが神様の子、天国市民、義人、聖徒という身分と地位にふさわしくないように行う時神様が懲戒のむちで叱って警告なさいます。 聖徒は神様のお言葉に適当に生活するのを力をつくさなければなりません。 礼拝と聖なる儀式を行うことにも真の意味を認識して敬虔に参加しなければなりません。 神様がこのために私たちに愛のむちで 痛くなぐる時このような判断と懲戒をありがたく思って悔い改めなければなりません。 そして聖なる行実と敬虔することで生活しなければなりません。

三番目で、未来の審判があります。
聖徒が神様の前に立つようになる最後の審判台があります。 これは ’キリストの審判台’と呼びます。 イエスキリストのために働いたとおり賞をくださるための審判です。 神様の光栄のために主を喜ばれるしようと行ったことは金や銀や宝石のようで燃えないだろう。 主がほめて賞をくださるでしょう。 しかし私利私欲のために行ったことは木や草やわらのようで燃えてしまうでしょう。 そして火の中でやっとからだでそのまま走って出た人のように救いをもらうのが恥ずかしくなるでしょう。イエスキリストを信じる人は皆が救いをもらうのに神様の国で享受する光栄と地位は各人の行為によって差別があります。 聖書には聖徒にくださる多くのかんむりに関してもおっしゃいました。 私たちがこの世の中で生きて行く一日一日は将来かんむりと賞を受けるための機会の日々です。

神様は創造主で治者であるのみならず裁判長です。 義のある神様は罪悪を見逃すとか黙過しません。 過去にも審判なさったし、今も審判なさいます。 ただすべての人がこの世の中でその行った事のどおりいつも報いを受けないです。 しかし未来の審判が待っています。 最後の審判です。 救いを得ることができなかった人々は大きくて白い宝座の審判台の前に立つようになるはずで各人がその行ったとおり刑罰の程度が決まる審判を受けるでしょう。 イエスキリストを信じて救い得た人々も各人が自分が行ったとおり審判を受けるでしょう。 恥ずかしい救いを得る者がいて誉めと賞を受ける者がいるでしょう。

「チョヨンモク牧師先生の信仰コラム‘緑の牧場、清い川’本の語り中」

聖 霊 の 賜 物

恵みと真理教会 **チョヨンモク** 牧師

今日は聖霊の賜物に関してよく見ます。 聖霊の賜物に対してコリント人への第一の手紙 12 章に九つが記録されていて、ローマ人への手紙 12 章には七つが記録されています。
まず、コリント人への第一の手紙 12 章に記録された賜物に関してよく見ます。

第一、知恵の言葉の賜物です。

聖霊がくださる “知恵の言葉の賜物”は私たちが当面する状況と問題を正しく分別して適切に対処して行くようにする賜物です。 経験と訓練による知恵ではなく聖霊がくださる賜物です。 聖徒がイエスキリストに対する信仰のため逼迫にあって引かれて行って審問を受ける場合に対して イエスキリストが親しくおっしゃるのを “だから、どう答弁しようかと、前もって考えておかないことに心を決めなさい。あなたの反対者のだれもが抗弁も否定もできないような言葉と知恵とを、わたしが授けるから。”(ルカによる福音書 21:14,15)としました。 これは知恵の言葉の賜物をくださることに対する約束です。

第二、知識の言葉の賜物です。

“知識の言葉の賜物”は神様のお言葉を正しく分別して伝えさせる賜物です。 また他の情報手段を通じなくてもっぱら聖霊が教えてくれるので事物の実際が分かるようになる “知識の言葉の賜物”があります。 聖霊降臨で教会が誕生されて復興される中に不祥事が発生しました。 信者が献身的に教会に豊富な献金を差し上げました。 アナニヤとサッピラの夫婦も献金しようと彼らが所有した畑を売りました。ところで 畑を売ったお金の中一部分を持ってペテロ使徒の前へ行って 畑を売ったお金の全部を差し上げると欺いて言いました。 ペテロがアナニヤに向けて “そこで、ペテロが言った、「アナニヤよ、どうしてあなたは、自分の心をサタンに奪われて、聖霊を欺き、地所の代金をごまかしたのか。 売らずに残しておけば、あなたのものであり、売ってしまっても、あなたの自由になったはずではないか。どうして、こんなことをする気になったのか。あなたは人を欺いたのではなくて、神を欺いたのだ」。”(使徒行伝 5:3,4) しました。 アナニャがこの言葉をきいて 倒れて息が絶えて魂が去りました。 ペテロは前もって入手された情報でその内幕が分かるようになったのではなく “知識の言葉の賜物”から分かるようになったのです。

第三、信仰の賜物があります。

神様のお言葉に対する信仰は聖霊の賜物に属します。 イエスキリストを信じる信仰は聖霊による信仰です。 “そこで、あなたがたに言っておくが、神の霊によって語る者はだれも「イエスはのろわれよ」とは言わないし、また、聖霊によらなければ、だれも「イエスは主である」と言うことができない。” (コリント人への第一の手紙 12:3)と言いました。 聖霊の賜物としての信仰が臨む時その信仰で行動すれば奇蹟のような仕事が起こったりします。 ダビダは善行と救済をたくさんした信者でした。その女人が病んで死んだから人々がその死骸を洗って屋根の裏部屋に残しました。 聖徒はペテロ使徒に人を送って彼らに来てくれるのを懇請しました。 ペテロが到着するとすべてのやもめがダビダに彼らのために作った服を見せてくれながら泣きました。 その時ペテロに驚くべきな信仰ができました。 ペテロが人々をすべて外で出して祈ってから死骸に向けて “ダビダよ、起きなさい。” したら、ダビダに目を開いてペテロを見て起きて座りました。 ペテロが持つようになった信仰は聖霊の賜物としての信仰でした。

第四、病気癒やし賜物です。

“病気癒やし賜物”という言葉で “病気癒やし”という言葉と “賜物”という言葉の原語は皆が復数名詞です。 これは多くの種類の疾病が皆治癒対象というのを現わしています。他の聖徒より病気癒やし賜物がたくさん与えられた方がいるが、概して病気癒やし賜物はすべての聖徒に現われる賜物です。 だから 病気癒やしのための祈祷はすべての聖徒の義務で特権です。

五番目、力あるわざを行うの賜物です。

力あるわざを行うの賜物に現われる奇跡は神様がいらっしゃったこととまた神様が聖徒のために働いていらっしゃることを見せてくれる手段になります。 皆さんは神様の光栄を現わして福音を力が強く伝えるために聖霊の賜物を切に望むのが力あるわざを行うの賜物を切に求めてください。

六番目、予言する賜物です。

ペテロの第二の手紙 1 章 20 節と 21 節に見ると “聖書の予言はすべて、自分勝手に解釈すべきでないことを、まず第一に知るべきである。” と言いました。 テモテへの第二の手紙, 3 章 16 節には “聖書は、すべて神の霊感を受けて書かれたものであって、人を教え、戒め、正しくし、義に導くのに有益である。” しました。 このような句節を通じて見ると基本的に、予言と言うのは神様が予言者と使徒を通じてくださった言葉で聖書に記録されたお言葉を意味します。 新旧約聖書が完成された以後に聖霊の賜物として与えられる予言は未来に対する先知的な予言より教会と信者に徳を立てて勧勉するための性格を持った予言だと言えます。コリント人への第一の手紙 14 章 3 節に見ると “しかし預言をする者は、人に語ってその徳を高め、彼を励まし、慰めるのである。”と言いました。 未来に起こる事に対して言う場合もあるが私たちの念頭に留めおくことはこのような予言は聖書に記録された予言と同等に思ってはいけないし聖書に記録されたお言葉で分別して判断しなければなりません。

七番目、霊を分別する賜物です。

ペテロがイエス様にとがめを受けた一つの事件は霊を分別する尺度が何やら分からせてくれます。 ある日イエス様が弟子にいまから自分に近づく事を予告しました。 自分が多い苦難を受けて殺されて三日目によみかえるとおっしゃいました。 その瞬間ペテロがイエス様をつかんで引き止めるのを “イエス様、この事が決してイエス様に起きてはいけないです。” しました。 イエス様がペテロを叱っておっしゃるのを “サタンよ、私の後に退きなさい。あなたは私を倒れさせる者だ。あなたが神様の仕事を考えなくて返って人の仕事を思うのだ。” としました。 普通の人の考えではペテロの行動は少しもとがめるのではないです。 それなのにイエス様はペテロの言うことがサタンの霊に接触されたことであるという事実を明らかに現わしました。神様のみ旨を否定する言葉はサタンの霊に接触されたとか影響を受けたのです。 神様のみ旨は聖書に記録されています。 だから聖書に記録されたお言葉を否定するとか歪曲する言葉はその出処がサタンです。

八番目、各種の異言を言う賜物です。

異言はこの世の中に属した言葉ではないです。 “異言を語る者は、人にむかって語るのではなく、神にむかって語るのである。それはだれにもわからない。彼はただ、霊によって奥義を語っているだけである。”(コリント人への第一の手紙 14:2) しましたし “もしわたしが異言をもって祈るなら、わたしの霊は祈るが、知性は実を結ばないからである。すると、どうしたらよいのか。わたしは霊で祈ると共に、知性でも祈ろう。霊でさんびを歌うと共に、知性でも歌おう。”(コリント人への第一の手紙 14:14,15) しました。 皆さん皆が異言の賜物を受けて霊で神様と秘密を言う祈祷をなさってください。

九番目、異言通訳する賜物です。

異言は言う人や聞く人がその意味が分からないと言いました。 その霊で秘密を言うと言いました。 しかし聖霊が通訳する賜物をくだされば聞き分けることができる言葉に通訳することができます。 異言を通訳すれば神様のお言葉を伝える予言のような効果を得るようになります。 聖書時代の今日には誰も記録された神様のお言葉を読めて、そのお言葉を悟って伝える説教をきくことができるから異言通訳の必要性が初代の教会のようではないと話せます。

次に、ローマ人への手紙 12 章にある賜物を手短によく見ます。

“このように、わたしたちは与えられた恵みによって、それぞれ異なった賜物を持っているので、もし、それが預言であれば、信仰の程度に応じて預言をし、奉仕であれば奉仕をし、また教える者であれば教え、 勧めをする者であれば勧め、寄附する者は惜しみなく寄附し、指導する者は熱心に指導し、慈善をする者は快く慈善をすべきである。”(ローマ人への手紙, 12:6～8)で記録されています。 コリント人への第一の手紙 12 章の賜物と重複される予言の賜物を抜いて ある人には御霊によって知恵の言葉が与えられ、ほかの人には、同じ御霊によって知識の言、またほかの人には、同じ御霊によって信仰、またほかの人には、一つの御霊によっていやしの賜物、またほかの人には力あるわざ、またほかの人には預言、またほかの人には霊を見わける力、またほかの人には種々の異言、またほかの人には異言を解く力が、与えられている 賜物があります。 こんな賜物は多少の差はあってもすべての聖徒に現われる賜物です。 こんな賜物を積極的に活用する人は賢くて幸いである人です。 聖霊の賜物は神様の光栄を現わして、福音を伝えて、教会に徳を立てるようにするために聖霊が聖徒にください。

聖霊の賜物と関わる聖書の三つの句節をお知らせいたします。 “各自が御霊の現れを賜わっているのは、全体の益になるためである。”(コリント人への第一の手紙 12:7) “だが、あなたがたは、更に大いなる賜物を得ようと熱心に努めなさい。そこで、わたしは最もすぐれた道をあなたがたに示そう。” (コリント人への第一の手紙 12:31) “だから、あなたがたも、霊の賜物を熱心に求めている以上は、教会の徳を高めるために、それを豊かにいただくように励むがよい。”(コリント人への第一の手紙 14:12). 聖徒の皆さんは聖霊の賜物に対する知識を持ったからこれを慕って切に求めてください。 そして皆さん皆に聖霊の賜物が豊富になるように願いします。